（様式　局・区・室用）

福岡市職員表彰　推せん書

推せん者	職　　名	交通事業 管理者	氏　　名	坂田　憲治

Ⅰ　推せんされる個人，団体

1　推せんされる個人，団体等

個人名（所属）又は団体名（対象職員数）	坂本　憲磨　（交通局運輸部乗客サービス課姪浜管区駅）
件　　名	地下鉄駅係員用　新「勤務管理システム」の構築

2　推せん区分（複数回答不可）

- ☐ ①　市政に関し特に顕著な功績があったもの
- ☑ ②　事務の改善，能率化に努め他の模範となるもの（改善改革部門）
- ☐ ③　職務の内外を問わず，本市職員の全体の名誉を高め，信用を深めるような善行があったもの
- ☐ ④　災害を未然に防止し，又は非常の際に特別の功績があったもの
- ☐ ⑤　業務の執行において平素から努力を重ね，業績を上げているもので，他の模範となるもの

※　③④については，以下Ⅰ-3，Ⅱ-2-(1)，3-(3)を記載の上(必須)，その他の項目も，可能な限り記載記載してください。①②⑤については，原則として全ての項目を記載ください。

3　推せんの事案の概要（取組の内容や結果，最もアピールしたいポイントを簡潔に記載してください）

取組等の時期・年月日	平成２２年９月３０日～平成２３年９月３０日

平成２３年９月末まで使用していた，駅係員全体の勤務表等を作成する「勤務管理システム」は，配置人員等の変更に対応できず，修正等に時間を要していたため，職員が独力で事務量軽減を目的として新たに新「勤務管理システム」を構築したもの。
また，システム構築と合わせて，「取扱説明書」を作成し，職員の異動等があっても対応できるようにしたため，保守点検およびシステム改修にかかっていた費用が必要なくなった。

※　改善改革部門〔上記1-②〕の場合は，上記を含め，推せんにあたってのポイントを以下から選んでください。（複数回答可）

- ☐ 連携（複数の部署が連携している）
- ☐ 新規性（従来にはなかった発想・手法を用いている）
- ☐ 共働（市民と共に取り組んでいる）
- ☑ 自主性（参加者が自ら意欲的に取り組んでいる）
- ☐ 発展性（今後の継続性や他の部署等への展開を期待できる）
- ☑ 成果の大きさ（①市民サービス向上　②効率性　③経費削減　④費用対効果の高さ　⑤歳入確保に貢献している）
- ☐ センス（人を引きつける魅力がある。センスがよい）

Ⅱ　推せん事案の詳細

1　課題，目的等（解決する必要があった課題，取組を行うきっかけ等について）

泊り勤務を行う駅係員の勤務表や係員配置表及び特殊勤務等を反映させた時間外勤務等命令簿を作成するために，平成１７年度より「勤務管理システム」を運用していたが，平成２１年度の中洲川端駅業務委託化に伴い，管区駅配置人員等の変更に対応できず，駅係員勤務表等の作成や修正に長時間を費やしていた。
また，ＰＣレンタル機種変更の際，Windows Vistaまでしか対応できない（最新ＯＳ搭載機種への変更ができないことになっていた）。
以上の理由により駅係員勤務表等の作成や修正に費やす事務量の軽減を図る必要があった。

２　取組の経緯

(1)　経過（取組の進展・実行過程及び時期，対応の流れについて）

平成２２年
　　９月３０日：新「勤務管理システム」の構築作業開始

平成２３年
　　１月下旬～２月中旬：新「勤務管理システム」シミュレーション作業
　　３月中旬～３月下旬：各管区駅での精査作業
　　４月上旬～４月下旬：精査作業に伴うシステム不具合修正
　　６月１日～：新「勤務管理システム」試験運用開始
　　１０月１日～：新「勤務管理システム」稼働開始

(2)　推進体制（取組に関連した部署・職員，市民（団体），民間企業，NPO等について）

各管区駅の駅長および副駅長

３　取組の結果・効果等

(1)　結果内容，効果（取組の結果，量的・質的な成果，費用対効果等について）

これまでのシステムを元に，新「勤務管理システム」を新たに構築したことにより，これまで駅係員勤務表等の作成や修正（４週間分）に約３時間の時間を要していたものが，約３０分に短縮された。また，システム構築と合わせて，「取扱説明書」を作成し，職員の異動等があっても対応できるようにしたため，保守点検およびシステム改修にかかっていた費用が必要なくなった。

(2)　直面した障害及びその克服方法（苦労したことや困難だったこと及びその解決方法について）

以前の勤務管理システムでは，勤務体系の変更があった場合などに正常に動作しないことがあったため，どのような変更があった場合でも対応できるように柔軟性を持たせたシステムを設計しなければならなかった点で苦労した。
また，各管区駅において精査作業をしてもらったが，不具合を直すだけではなく，たくさんの意見や要望があったため，システムの手直しや再構築が必要となったので苦労したが，その結果より良いものが出来たと確信している。

(3)　成功の要因（具体的な出来事や行動だけではなく，職員等の思いなども含めて）

駅係員勤務表等の作成や修正に要する時間が短縮できれば，事務量の軽減及び保守点検等の経費の節減につながるだけでなく，各駅の巡回や駅係員へきめの細かい指導に時間をかけることができるようになり，ひいては，お客様サービスの向上につながっていくものとの考えで取り組んでいったことが成功の要因となった。
また，システムを使用する職員の意見・要望を受け入れながら開発することが出来たので，その分操作性の向上や作業時間の短縮に繋がったのではないかと思う。

(4)　取組内容の継続性，波及効果（取組の今後の活かし方，他部署等への波及の可能性について）

システム構築と合わせて，「取扱説明書」を作成し，職員の異動等があっても対応できるようにした。
今後は，システムの不具合が発生した際に誰でも対応できるよう「システム不具合時のマニュアル」を作成していく予定。

※　改善改革部門については，局・区・室からの推せんは１～２事案とし，複数案件を推せんされる場合は，局・区・室において，順位を付けてください。